

基礎科学分野

自然の成り立ち

授業科目	気象学	科 責任者 目	吉田 龍平	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		学 調整者 内	平尾 温司	時間数	15	受講セメスター	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	大気現象は我々の生活にどのような影響を及ぼしているのか、また、現在すでに重要な課題である気候変動のメカニズムおよびその影響について理解することを目的とする。						
	到達目標	1. 地球上でのエネルギー・熱の流れを理解し、大気現象の成り立ちについて説明する。 2. 大気現象が日常生活へ及ぼす影響について説明する。 3. 気候変動のメカニズムと今後起こりうる日常生活への影響を説明する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	大気の構造	[講義] 対流圏・成層圏の高度と気温分布について学習する。					吉田	
2	大気の運動	[講義] 地衡風と傾度風，地表に近い大気の特徴について学習する。					吉田	
3	地上気象観測	[講義] アメダスの観測項目とカテゴリ（降水，風速，台風）について学習する。					吉田	
4	降水過程と気象レーダ	[講義] 凝結過程と併合過程，大気の散乱について学習する。					吉田	
5	リモートセンシング	[講義] 可視・赤外・水蒸気画像，十種雲形，温度風について学習する。					吉田	
6	地上・高層天気図の見方	[講義] 地上，850，700，500 hPa 天気図の読み取り方について学習する。					吉田	
7	地球温暖化	[講義] 温室効果気体と気温の長期変動について学習する。					吉田	
8	評価	レポートによる評価。					吉田	
教科書	指定せず			参考書等	「一般気象学 第2版補訂版」小倉義光、東京大学出版、2016年			
履修条件	なし			評価方法	1. レポートによる評価（100%） 2. 学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評を行う			
備考	気象学は地球の大気で起こっている現象を理解する学問です。気象が私たちの生活に及ぼす影響は大きいものがあります。この大気で起こっている現象を理解し、予測するためにどのような観測方法が用いられているのか理解して下さい。また、本科目では近年、話題になっている地球温暖化についても学習します。予習復習については23時間以上とします。							

授業科目	化学	責任者	二瓶 賢一	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		調整者	平尾 温司	時間数	15	受講semester	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	物質や分子、原子の担う現象、つまり物質のありかたと化学反応について理解する。						
	到達目標	1. 原子と分子の構造、分類、性質と化学反応との関係を説明する。 2. 酸-塩基反応と化学平衡を説明する。 3. 基本的生体構成成分を説明する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	毒ガスの化学	[講義] 毒ガスの話を通して、原子と分子の構造、分類、性質および化学反応性について学習する。 キーワード：原子価、パウリの排他原理、塩素					二瓶	
2	日焼けの化学	[講義] 日焼けの話を通して、原子と分子の構造、分類、性質と化学反応性および生体構成成分について学習する。 キーワード：紫外線、ラジカル、光合成					二瓶	
3	温泉の化学	[講義] 温泉の話を通して、化学反応、化学平衡、熱力学および生体構成成分について学習する。 キーワード：エントロピー、ラドン、タンパク質の変性					二瓶	
4	お菓子の化学	[講義] お菓子の話を通して、化学平衡、酸化還元、熱力学および生体構成成分について学習する。 キーワード：熱量、甘味料、ビタミンC					二瓶	
5	点滴の化学	[講義] 点滴の話を通して、原子と分子の構造、性質、酸-塩基反応および溶液の性質について学習する。 キーワード：イオン、pH、緩衝液					二瓶	
6	消毒の化学	[講義] 消毒の話を通して、原子と分子の構造、性質および生体構成成分について学習する。 キーワード：石けん、界面活性剤、抗生物質					二瓶	
7	高山病の化学	[講義] 高山病の話を通して、原子と分子の性質、生体構成成分および気体の性質について学習する。 キーワード：理想気体、分圧、麻酔					二瓶	
8	試験						二瓶	
教科書	指定しない			参考書等	「マクマリー有機化学概説第7版」J. McMurry 著、東京化学同人、2017年 「化学入門第2版」下井守他著、東京化学同人、2013年			
履修条件	なし			評価方法	1. 試験 (60%) 2. 小テスト (30%) 3. 授業態度 (10%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	講義の予習復習時間は23時間以上。予習として、インターネット等を活用し、「学習内容ならびに方法」に記載したキーワードについてあらかじめ調べる。また、板書事項の復習を行うこと。							

授業科目	生物学	責任者	宮川 美里	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
		調整者	平尾 温司	時間数	15	受講セメスター	1年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	生物学および基礎医学系科目を学ぶ上での基礎知識を習得する。						
	到達目標	1. 生体の最小単位である細胞の構造とその機能を説明する。 2. 遺伝情報の伝達と発現を説明する。 3. 生殖や動物の身体を構成する器官を説明する。 4. 生物と環境の関係について説明する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	細胞と代謝	[講義] 生物の基本単位である細胞の機能と、細胞内で行われるエネルギー代謝について学ぶ。栄養ドリンクがどのような意図で作られているのかを理解する。					宮川	
2	恒常性と免疫	[講義] 体の各器官の機能に注目し、私たちの体が恒常性を保つ仕組みと、病原菌やウイルスから体を守る仕組みについて学ぶ。予防接種やエイズウイルス感染の仕組みを理解する。					宮川	
3	遺伝学 (基礎)	[講義] 生殖 (配偶子形成)、遺伝の仕組み、遺伝子が働く仕組みについて学ぶ。遺伝子疾患についても紹介する。					宮川	
4	遺伝学 (発展)	[講義] 生物が環境に応じて表現型を変化させる能力を学ぶ。遺伝子組換えやゲノム編集技術などのバイオテクノロジーについて学び、オーダーメイド医療の可能性について理解する。					宮川	
5	進化と多様性	[講義] 様々な生物が共通の祖先からどのように生じてきたかを学び、進化には目的がないことを理解する。					宮川	
6	脳と認識	[講義] 脳の構造を知り、私たちが学習する仕組みに加え、鬱や依存症に陥る仕組みも理解する。					宮川	
7	生物と環境	[講義] 生態系における我々人間の位置付けと、近年問題になっている環境汚染や外来種問題を理解する。					宮川	
8	試験						宮川	
教科書	指定なし			参考書等	授業ごとに紹介			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験 (50%) 2. 授業ごとに提出するリアクションペーパー (50%) 3. 学習態度 (減点法) 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	本講義は高校までに学んできた生物領域の内容を実生活と結びつけて理解し、基礎医学系科目を学ぶ上での基礎知識と科学的思考を習得する科目である。必要な資料は授業ごとに配布する。予習復習時間は23時間以上。							

授業科目	人体科学の基礎		科目責任者 倉科 智行	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	15	受講semester	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	人体科学を学ぶために必要な、自然科学の諸領域の基礎を横断的に理解する。						
	到達目標	1. 人体科学を学ぶために必要な、自然科学の基礎について理解したことを表現する。 2. 自然科学の諸領域間の有機的連関について把握したことを表現する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	総論・単位	[講義] 自然科学系学科目の基礎を概観し、人体科学を理解するために必要な「単位」の意味について、分野横断的に学ぶ。					倉科	
2	人体の成り立ち	[講義] 細胞の成り立ちと仕組みを学習し、人体の構造の基礎について学ぶ。					倉科	
3	生殖と死	[講義] 遺伝の学習を通じ、生殖と死について考える。					倉科	
4	恒常性	[講義] 生命維持の仕組みを考える。					倉科	
5	生命反応と物質	[講義] 生命反応を、主に化学の観点から学ぶ。					倉科	
6	電気・波・力学	[講義] 生命反応を、主に物理学の観点から学ぶ。					倉科	
7	医療と科学	[講義] 医療の現場における化学、物理、数学の活用される場について、また科学的判断のための批判的思考について学ぶ。					倉科	
8	試験						倉科	
教科書	指定しない			参考書等	なし			
履修条件	なし			評価方法	1. 試験 (90%) 2. 学習態度 (10%) 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	理科系科目に苦手意識がある学生、十分学べてこなかった自覚がある学生の受講を歓迎する。各回の学習課題についての予習と講義の復習を、配布資料を用いて23時間以上しっかり行い、理解を深めてほしい。							

授業科目	医療と バイオテクノロジー	科目 責任者	平尾 温司	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	15	受講セメスター	1・2年次 前学期	
学習目的と目標	目的	バイオテクノロジーは、古くは発酵食品の生産から始まり、現在では遺伝子組み換えの発展とともに農業生産や環境、および医療に利用されている。本科目はバイオテクノロジーの基礎知識の習得および産業への応用等、幅広い見識を持たせることを目的とする。						
	到達目標	1. 遺伝子組換え農作物の開発と遺伝子組換え医薬品がどのように利用されているのか説明する。 2. iPS細胞を用いた再生医療における臨床試験の進行状況について説明する。 3. ゲノム編集技術やゲノム医療について説明する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	バイオテクノロジーの歴史	[講義] バイオテクノロジーとは何か。発酵食品や動植物の品種改良から現代までのバイオテクノロジーの歴史について学習する。					平尾	
2	グリーンバイオテクノロジー	[講義] 遺伝子組換え農作物と機能性農作物、花粉症治療米や無花粉スギについて学習する。					平尾	
3	バイオテクノロジーの動物への応用	[講義] ヒトの不妊治療の基礎となる動物の人工授精、胚移植、体外受精、緑色蛍光タンパクやクローン動物等について学習する。					平尾	
4	バイオテクノロジーがもたらした医薬品	[講義] 遺伝子組換え技術によって作製されるヒトインスリン、ヒト成長ホルモンおよび抗体医薬品について学習する。					平尾	
5・6	再生医療とバイオテクノロジー	[講義] 近年、話題になっているES細胞やiPS細胞などについて学ぶとともに再生医療の可能性と最新事情について学習する。					平尾	
7	ゲノム編集およびゲノム医療	[講義] 近年、開発されたゲノム編集技術およびゲノム医療について学習する。					平尾	
8	評価						平尾	
教科書	指定しない			参考書等	「高校生からのバイオ科学の最前線」 生化学若い研究者の会著、日本評論社、2014年			
履修条件	なし			評価方法	1. レポート (80%) 2. 学習態度 (20%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	毎回、講義資料を配布するので、復習に利用すること。本科目の予習復習については23時間以上行う。							

授業科目	災害学	責任者	米川 力	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件なし	
		調整者	大塚 公一郎	時間数	15	受講セメスター	1・2年次前学期		
学習目的と到達目標	目的	災害の概念と関連する法、防災とまちづくり、災害医療、および災害看護について理解を深める。							
	到達目標	1. 災害の定義と類型を説明する。 2. 自然災害や人災の代表的な事例を理解し、関連法の基本を説明する。 3. 防災とまちづくりについて説明する。 4. 災害医療および災害看護の基本を説明する。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員		
1	災害とは	[講義] 災害看護の歴史、現状、課題について事例を元に理解する。					米川		
2	災害と医療	[講義] 災害医療 (DMAT) の活動を理解する。					新庄		
3	災害看護の実際	[講義] 災害看護の実践に必要な知識や技術について事例を元に理解する。					谷島		
4	防災と街づくり	[講義] 消防の立場からの防災のためのまちづくり・システム作りを理解する。					秋山		
5	国の政策と法律	[講義] 災害看護を实践する上で必要な国の政策や災害関連法規について理解する。					米川		
6	心のケア	[講義] 被災者と救援者に対する心のケアの重要性を理解する。					米川		
7	災害対応の実践	[演習] 災害対応ゲームを用いたシミュレーションを行い、実際の災害現場での対応を考える。					米川		
8	評価						米川		
教科書	指定しない		参考書等	「災害看護 改訂第3版」小原真理子 酒井明子、南山堂、2019年 「看護の統合と実践③ 災害看護」酒井明子、メディカ出版、2022年 「3. 11 東日本大震災 看護管理者の判断と行動」山崎達枝、日総研、2011年 「災害派遣シミュレーション Q&A」山崎達枝、日本看護協会出版会、2013年					
履修条件	なし		評価方法	1. レポート (100%) 2. 学習態度 (減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する					
備考	頻発する災害発生時にどのように対応すべきかの基本を学ぶ科目である。 事前学習として、以下の冊子を熟読すること。予習復習時間は23時間以上。 ①栃木県看護協会 HP 内の「災害看護マニュアル」 http://www.t-kango.or.jp/images/download/rsaigai2013.pdf ②「スフィア・ハンドブック」 https://www.refugee.or.jp/sphere/The_Sphere_Project_Handbook_2018_J.pdf ③内閣府 HP 「避難所運営ガイドライン」 http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1604hinanjo_guideline.pdf								

授業科目	宇宙学	責任者	大森 理恵	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		調整者 学内	倉科 智行	時間数	15	受講 Semester	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	宇宙の生成と現状についての理論と観測結果を理解し、私たちが置かれた宇宙空間について把握する。						
	到達目標	1. 人類が歩んできた宇宙探究の歴史と今を説明する。 2. 恒星と惑星、太陽系を説明する。 3. 銀河宇宙の成り立ちを説明する。 4. 宇宙の誕生とその後の変化についての理論を説明する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2	現代の宇宙の姿	【講義】 古典宇宙論：天動説から地動説へ、コペルニクス、ガリレオの登場、ケプラーの法則とニュートン宇宙のスペック：大きさ、密度、温度、形、構成物、年齢等 宇宙の階層構造：恒星、惑星、衛星、小惑星、太陽系、銀河、銀河団、超銀河団 以上の項目について学習する。					大森	
3・4	宇宙からの信号とそのキャッチ、宇宙の探査	【講義】 宇宙からの信号：宇宙線（電磁波、粒子線、重力波）とその源（ガンマ線バースト、超新星爆発、パルサー、クエーサー等） 信号のキャッチ：ハッブル宇宙望遠鏡、赤外線望遠鏡すばる、ガンマ線望遠鏡、重力波望遠鏡、宇宙ステーション 宇宙探査：月面探査、惑星探査等 以上の項目について学習する。					大森	
5・6	宇宙のはじまりと進化	【講義】 宇宙の始まり：ハッブルの法則、ビックバン宇宙、宇宙背景放射、膨張宇宙 星の進化：4つの基本的な力、星間ガス、原始星、主系列星、赤色巨星、白色矮星、超新星爆発、中性子星、ブラックホール 以上の項目について学習する。					大森	
7	地球、生命の誕生	【講義】 地球の誕生、生命の誕生、宇宙の元素分布、水、生体高分子、地球外の生体関連分子 以上の項目について学習する。					大森	
8	評価						大森	
教科書	指定しない	参考書等	「137億年の物語—宇宙が始まってからの全歴史—」、クリストファー・ロイド、文藝春秋、2012年 「宇宙の見え方が変わる物理学入門」、小林晋平、ベレ出版、2021年					
履修条件	なし	評価方法	1. レポート（80%） 2. 学習態度（20%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する					
備考	人間の思考を学ぶ哲学の原点は宇宙への問だった。21世紀、私たちの環境世界は気象でも災害でも宇宙へと拡大している。本講座では基本的事項も交えて科学的ビジョンから宇宙への知見を紹介する。身近な天文ニュースもトピックスとするので、日頃の報道に注目したり、天体現象の観察会等に積極的に参加したりすることを希望したい。事前に各回の学習項目を確認し、授業中には配布資料をもとに自分ノートを作り、事後学習に役立ててほしい。予習復習に要する時間は23時間以上。							

基礎科学分野

人間の本質の理解

授業科目	哲学	責任科目	中山 純一	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件なし
		調整者	大塚 公一郎	時間数	15	受講セメスター	1・2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	人間、身体、精神、存在、自己、世界、宇宙などの意味について考察する。						
	到達目標	1. 人間、身体、精神、存在、自己、世界、宇宙などのキーワードを検討し、その意味するところについて考えを述べる。 2. 哲学的な物事の捉え方、思考のすすめ方を、事例を通して学んだことを述べる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	起源を問う	[講義] 古代ギリシアの自然哲学の考えを参考にしながら、起源を問う意味や、起源とは何か、存在をどのように考えるかについて学ぶ。					中山	
2	イデア論とは何か	[講義] ソクラテス、プラトン、アリストテレス、それぞれの立場について学ぶ。とりわけイデア論が捉えている世界観と、経験的な自然観の対立について批判的に考える。					中山	
3	儒学とは何か	[講義] 古代中国思想である儒学(孔子『論語』)における実践哲学を学ぶ。また、『大学』、『中庸』、『孟子』もあわせて学ぶことで、哲学の実践的な用い方の意義を考える。					中山	
4	倫理とは何か	[講義] 心身が健康であること、仲間とともに生きること、仕事をし、よき家庭人として生きること。こうしたことを、古代ローマのストア派の立場を学ぶことで具体的に考える。					中山	
5	真理とは何か	[講義] 疑うことはどのようにして可能で、どこまで可能か。また、こうした疑いによって、真理はどのようなものとして見出されるか。これらの問題を、デカルトの立場に基づいて考える。					中山	
6	民主政治とは何か	[講義] 自然状態から人間が契約によって社会共同体を形成していくことを学び、個人の自由、人権と、共同体の役割について、今日の状況をふまえて考える。					中山	
7	哲学の意義とは何か	[講義] 世界の起源への問い、倫理、道徳、認識論、形而上学などの思考法を振り返り、現代社会において哲学的に思考することに、いかなる意義があるのかを考える。					中山	
8	評価						中山	
教科書	指定しない			参考書等	「哲学入門」バートランド・ラッセル、高村夏輝訳、ちくま学芸文庫、2005年 「人生の短さについて」セネカ、中澤務訳、光文社古典新訳文庫、2017年			
履修条件	なし			評価方法	1. 最終回のレポート(70%) 2. 学期中1回の小レポート(30%) 3. 学習態度(減点法) 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	自分で思考し、自分の経験を豊かにするのが好きな人。広く哲学に関心がある人に履修を勧める。 授業で配布する資料で予習するほか、議論への参加したりやレポート作成や読書も必要。講義でとったノート、参考書のほか、講義中に紹介する本などを、講義外での復習に役立てること。予習復習に要する時間は23時間以上。							

授業科目	倫理学	責任者	渡部 麻衣子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件なし
		調整者	大塚 公一郎	時間数	15	受講 Semester	1年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	社会的規範（ルール）や道徳的判断、道徳的価値について考察する。						
	到達目標	1. 社会的規範や道徳の意味を考え、それらの必要性を説明する。 2. 道徳的価値判断ができる能力を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	医療倫理学の概要	[講義] 医療倫理学の基本的考え方の概要を学ぶ。					渡部	
2	医療従事者と患者の関係	[講義] 医療行為における患者の意思確認について、その重要性和難しさ、そしてその方法を、倫理的な観点から学ぶ。					渡部	
3	生殖の医療倫理	[講義] 生殖医療技術の発達によって、人の生殖のあり方の倫理をめぐってなされてきた議論を学び、議論する。					渡部	
4	新生児期の医療倫理	[講義] 新生児期の医療技術の発達は「医療資源の配分」と「生命の価値」をめぐる論争を引き起こしてきた。ここではそれらについて学び、議論する。					渡部	
5	ケアの倫理	[講義] ケアする人とされる人の関係性において成り立つ「ケア」において生じる倫理的問題を論じる視座を学ぶ。					渡部	
6	老いと医療倫理	[講義] 次第に「自律性」を失っていく人を前にした時に生じる倫理的な問いに関する議論を学び、議論する。					渡部	
7	終末期の医療倫理	[講義] 死にいく人と向き合う時に生じる倫理的な問いに関する議論を学び、議論する。					渡部	
8	評価						渡部	
教科書	指定なし			参考書等	「入門・医療倫理」赤林朗編、勁草書房、2006年 「エシックス・センスー 倫理学の目を開け」新名隆志・林大悟編著、ナカニシヤ出版、2003年 「生命倫理のレポート・論文を書く」松原洋子・伊吹友秀編、東京大学出版会、2018年			
履修条件	なし			評価方法	1. 試験 (90%) 2. 学習態度 (10%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	「看護倫理学」をはじめ生命倫理や医療倫理を扱う科目の基礎となる科目である。毎回ディスカッションの時間を設ける。予習は配布資料をもとに行い、復習は配布資料の他、ノートおよび授業で紹介する参考書にあたって行うこと。予習復習時間は23時間以上。							

授業科目	歴史学	科 責任者	瀧音 大	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		学 調整者	大塚 公一郎	時間数	15	受講セメスター	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	地域に暮らす人々の生活・意識の特性と変容を、歴史的な視点から理解する。						
	到達 目標	ある時代、ある場所に暮らす人々が、生活を大きく左右する地域の自然・環境、生業形態、社会組織・制度などにどのように適応し、また変化を試みたか、その過程と意義について学んだことを述べる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	なぜ歴史を学ぶのか	[講義] 人々の行動は、時間の流れとともに変化する。歴史を学ぶことは、他者理解の方法のひとつであることを知る。					瀧音	
2	暮らしと食の地域史	[演習] 化学合成肥料や農薬を利用しない農家を訪問し、なぜ古い農法が必要なのかを伺い、農村・山村の伝統生業や食文化と現代生活の比較から、人の健康について考える。					瀧音	
3	病いと医療の地域史	[講義] 医術・医学や関連する制度・資源と、健康・病いのイメージや受療行動は、各時代における相互作用のなかで変わる。医療と人間との関係を歴史的視点から考える。					瀧音	
4	地域史と生活・信仰(1)	[講義] 日本に仏教が伝わり、寺が建立されるにいたった経緯やその背景、実際に建てられた古代寺院の実態などを、文献などから探っていくことで、次回の演習に備える。					瀧音	
5	地域史と生活・信仰(2)	[演習] 下野薬師寺の遺跡を訪れ、地域における古代寺院の成立・展開の歴史を中心に、地域生活や社会組織・制度のなかの信仰や人生観について考える。					瀧音	
6	「装い」の歴史	[講義] 古代の耳飾りや指輪など、さまざまなアクセサリーをとり扱いながら、古代の人々がどのような「装い」の習俗をもっていたのかについて、考えていく。					瀧音	
7	人体から探る人の歴史	[講義] 人骨にみられる殺傷痕や病的変化の痕跡から、日本人の生活形態や社会の変容をどのように見ていくことができるのかについて、探っていく。					瀧音	
8	試験(レポート)						瀧音	
教科書	指定しない			参考書等	適宜、授業において指示する			
履修条件	なし			評価方法	1. レポート(80%) 2. 学習態度・受講姿勢を中心とした平常点(20%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	人間(患者)理解の糸口の1つとして、社会や価値観の変化、個々人の人生史を理解する視点の涵養に重きをおく。また、[演習]とある回は校外学習を設定し、フィールドから学ぶ経験を重視するので、自転車の往復を厭わない積極的な学生の受講を期待する。この科目では、講義終わりに次の講義のキーワードを提示するので、それについて各自が事前に調べ、予習しておくこと、校外学習の経験と知識の結びつきを意識しつつ復習に臨むことが大切である。予習復習時間は合計23時間以上。							

授業科目	心理学		科目責任者 大塚 公一郎	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講 Semester	2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	心とからだのつながり、ストレスの概念、心身の発達などを理解し、また、知覚、学習と記憶、知能、言語、人格などの心理学の基礎的な知識を習得する。						
	到達目標	1. 心とからだのつながり、ストレス、心身の発達などを説明する。 2. 知覚、記憶、学習などの基本事項を説明する。 3. 心理面接法・カウンセリングなどの技術を説明する。 4. 看護の場面で起こる人間関係の問題を説明する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	心理学概論	[講義] 20世紀以降の現代心理学の潮流を概括する。心理学の様々な方法や実験心理学と臨床心理学の違いを理解する。					大塚	
2~4	心理学の基礎知識 I	[講義] 学習、記憶、知能についての基礎を学ぶ。					大塚	
5	心理学の基礎知識 II	[講義] 知覚についての基礎を学ぶ。ゲシュタルト心理学入門					大塚	
6	心理学の基礎知識 III	[講義] 欲求と感情についての基礎を学ぶ。					大塚	
7	心理学の基礎知識 IV	[講義] 衝動と感情のコントロール、防衛機制について学ぶ。					大塚	
8	心理学の基礎知識 V	[講義] 言語についての基礎を学ぶ。言語と思考、象徴機能の関係					大塚	
9	心理学の基礎知識 VI	[講義] 性格についての基礎を学ぶ。類型論と特性論					大塚	
10	心理学の基礎知識 VII	[講義] ストレスの概念、ストレスに対する心身の防衛反応について学ぶ。					大塚	
11	心理学の応用知識 I	[講義] ストレスへの対処能力について学ぶ。					大塚	
12	心理学の応用知識 II	[講義] 外傷体験、トラウマ反応と心の病気、外傷後ストレス障害について学ぶ。					大塚	
13	心理学の応用知識 III	[講義] マインドコントロールやカルト問題について学びつつ、現代社会における青年の心理について考える。					大塚	
14	心理学の応用知識 IV	[講義] 患者と医療者の心理について知り、臨床現場での望ましい態度や対応について学ぶ。					大塚	
15	試験						大塚	
教科書	指定しない			参考書等	「新版 心理学のあゆみ」大山正 他著、有斐閣、1990年 「図説 心理学入門[第2版]」齊藤勇 編、誠信書房、2005年			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験 (70%) 2. 学習態度 (30%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	本科目は、こころの問題を扱う他のすべての科目の基礎となる。授業中に、本学部での学習に役立つ重要な概念や用語を強調してとりあげる。提示された教材で事前に予習を行い、受講後の復習を行うこと。予習復習時間は46時間以上。							

授業科目	社会言語学		科目責任者 鹿野浩子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	15	受講セメスター	1・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	コミュニケーションを司ることばの内容のあり方・伝え方を学ぶ。						
	到達目標	1. 何気なく使用していることばの様々な現象や特徴を科学的に説明する。 2. 人間関係の構築とことばの運用との関係を説明する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	言語学と社会言語学	[講義・演習] この科目の概要である社会言語学とは何か - 日本語と英語の例から学ぶ					鹿野	
2	ことばの役割	[講義・演習] 伝達するためのことばの仕組みを学ぶ。					鹿野	
3	ことばの選択	[講義・演習] 多言語社会・コードスイッチングはどういうことなのか、なぜ起こるのかを学ぶ。					鹿野	
4	バリエーション	[講義・演習] 方言対標準語、男ことば対女ことば、年齢や職場でのことばの使い分けを学ぶ。					鹿野	
5	話しの内容(コンテキスト)	[講義・演習] 使用されることばは用いられる条件・場所により異なることを学ぶ。					鹿野	
6	法とことば	[講義・演習] ことばの使い方の違いを裁判でのやり取りの例から学ぶ。					鹿野	
7	中国語と日本語	[講義・演習] 文化が違えばモノの見方もちがう? - 日本語と中国語の会話例の違いを学ぶ。					鹿野	
8	評価						鹿野	
教科書	指定しない			参考書等	適宜、授業において指示する			
履修条件	なし			評価方法	1. 授業内提出物 (40%) 2. レポート (30%) 3. 発表 (30%) 4. 授業態度 (減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	ことばを通じて多文化理解に必要な概念を深めます。身の回りのことと照らし合わせてことばを客観的に見ていきます。予習では教科書を読み、ネットや図書館で定義や背景を事前に確認しておくこと。復習は、レジュメを自分のことばでまとめておくこと。予習復習は23時間以上。							

授業科目	教育学	責 任 者	池田 幸也	単 位 数	2	必 修 選 択 別	選 択	履 修 条 件 な し
		調 整 者 内	倉科 智行	時 間 数	30	受 講 セ メ ス タ ー	1・2年次 前 学 期	
学習目的と 到達目標	目的	人間の成長・発達や社会の発展に果たす教育の意義や役割について理解し、また、生涯を通じての教育や学習の必要性を理解し、生涯学習するための基礎的習慣を養う。						
	到達目標	1. 人間にとっての教育の意味、またその社会的機能について説明する。 2. 現代社会のなかに多様な教育の可能性があることを理解し、新たな教育的関係について探求したことを述べる。 3. 生涯発達（成長）の視点から、生活のなかの生涯教育／学習の機能について考えを述べる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	教育とは	[講義] 教育の営みを、思想史を踏まえて学ぶ。					池田	
2	教育学の形成と体系	[講義] 近代科学としての教育学の多角性を理解する。					池田	
3	現代の教育	[講義] 現代における教育の意義と目的について学習する。					池田	
4	教育の社会的機能	[講義] 教育の社会的機能と学習の意義を理解する。					池田	
5	学校教育の歴史	[講義] 近代学校教育制度の変遷を学ぶ。					池田	
6	日本の学校教育制度	[講義] 近代日本の学校教育制度の変遷を学ぶ。					池田	
7	学校教育の課題と現代	[講義] 現代の学校教育の現状と課題を学ぶ。					池田	
8	人間の発達と家庭教育	[講義] 人間の発達と家庭教育のあり方について学ぶ。					池田	
9	ライフコースと生涯学習	[講義] ライフコースにおける生涯学習の意義を学ぶ。 (自分の教育ライフコースを考える)					池田	
10	日本の社会教育	[講義] 日本における社会教育の役割を学ぶ。					池田	
11	リカレント教育について	[講義] 職業人におけるリカレント教育の重要性を学ぶ。					池田	
12	キャリア形成と教育	[講義] 発達の視点からとキャリア開発の意義を学習する。					池田	
13	看護師のキャリアと教育	[講義] 看護師のキャリア形成と専門職教育について学ぶ。					池田	
14	教育の未来を考える	[講義] 現代の教育課題を踏まえて未来の教育を構想する。					池田	
15	試験・評価	[講義・評価] まとめ 及び 筆記試験					池田	
教科書	指定しない			参考書等	・参考書等については講義で必要に応じて紹介する。			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験（80%） 2. 毎時間の各自のふりかえりコメント及び学習態度（10%） 3. 教育ライフコースレポート（10%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	教育学は、生涯発達の視点から子どもから老年期までの学びに加え、看護師をはじめとした専門職のキャリア形成、ケアとしての人間関係づくり、各自の人生設計に有効な示唆を与える。シラバスに基づき学習課題について予習し、配布するプリントを活用して復習すること。予習と復習時間は46時間以上。							

授業科目	人間関係論	科目責任者	大塚 公一郎	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件なし
				時間数	15	受講セメスター	1年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	集団力学の理論を習得し、相互に影響を与えながら人が他者と形成する人間関係を理解し、円滑な人間関係をつくりあげる能力を養う。						
	到達目標	1. 人間の心理、文化、社会的発達段階における自己・他者との出会いについて説明する。 2. 人間関係についての諸理論と援助者を取り巻く人間関係への活用について説明する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	人間関係論の意義 コミュニケーション論入門	[講義] 人間を関係的存在として捉える視点の重要性を理解する。コミュニケーションの基本概念や構造、ダブルバインド理論の初歩について学習し、理解する。					大塚	
2	社会的相互作用論と社会的役割とアイデンティティ	[講義] 社会心理学モデルである社会的相互作用や役割論、アイデンティティ論の基礎を学び、人間の自己や他者、社会・文化との関係について、おおまかに理解する。					大塚	
3	人間関係づくり体験学習Ⅰ エンカウンター理論の学習と体験	[講義・演習] 人間関係の相互作用であるジョハリの窓を理解し、エンカウンター手法の6段階に沿って、集団機能を活用した人間関係づくりを学習する。					渡辺	
4	人間関係づくり体験学習Ⅱ 自己理解・他者理解	[講義・演習] 自己理解・他者理解のプロセスを体験学習し、理解する。					渡辺	
5	人間関係づくり体験学習Ⅲ 自己開示	[講義・演習] 自己開示のプロセスを体験学習し、理解する。					渡辺	
6	人間関係づくり体験学習Ⅳ 自己主張の体験	[講義・演習] 自己主張のプロセスを体験学習し、理解する。					渡辺	
7	エンカウンター理論を活かした対人関係の構築	[講義] これまで体験したエンカウンターからの学びと社会心理学的理論を併せ、実生活での活用の計画を学習する。					渡辺	
8	評価						大塚	
教科書	指定しない			参考書等	「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第3版」 石川ひろの他著、医学書院、2018年 開講時必要に応じて紹介する。			
履修条件	なし			評価方法	1. レポート(70%) 2. 学習態度(30%または減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	人間関係を扱う本科目は、対人援助職をめざす皆さんが看護学部で学ぶすべての科目と関連をもつ。提示された教材で事前に予習を行い、受講後の復習を行うこと。予習復習時間は23時間以上。							

授業科目	身体活動論	責科 任者 目	板井 美浩	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		調学 整者 内	鹿野 浩子	時間数	30	受講 Semester	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	身体活動による代謝の変化を理解し、生涯健康生活における実践能力を培う。						
	到達 目標	1. 健康の保持増進のための運動実践を行い、その能力を習得する。 2. 心身ともにゆたかな健康生活を送れるようなライフスタイルを確立する方法を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2	オリエンテーション	[講義] 授業内容および進行方法を説明する。 出席カードを作成する。					板井	
3・4	行動体力を測定しよう	[演習] 形態・筋力・瞬発力・持久力などの測定を行い、現在の行動体力を知る。					板井	
5・6	薬師寺史跡ウォーキング	[演習] 様々な運動・スポーツを実践し、身体の変化をレポート に書き残す。スポーツを楽しみながら「身体」を感じ取る 姿勢を学ぶ。					板井	
7・8	アルティメット						板井	
9・10	身体を感じ取る運動の 実践と バドミントン						板井	
11・12	身体を感じ取る運動の 実践と ソフトバレー						板井	
13・14	ユニバーサルホッケー	[演習] 体力・健康のあり方や「命ある私のからだ」について改めて考察する。					板井	
15	まとめと評価						板井	
教科書	指定しない			参考書等	なし			
履修条件	なし			評価方法	1. 授業態度評価点 (70%) 2. レポート点 (30%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	定員は設けないが、希望者が多い場合は、実施できる実技種目が限られることを承知の上で履修すること。 毎回の講義・演習に積極的に、そして集中して学んでいくこと。予習復習時間は12時間以上。 養護教諭2種免許状の申請に必要な科目である。							

授業科目	保健体育	責任者	板井 美浩	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		調整者 学内	鹿野 浩子	時間数	15	受講セメスター	1・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	生涯を通して健康で有意義な人生を送ることに不可欠なよりよいライフスタイル形成についての理論を学ぶ。						
	到達目標	1. 健康の概念をQOLの視点から説明する。 2. 健康を保持増進するための方策を、食事・栄養、運動・スポーツ、生活習慣などと関連づけて説明する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	オリエンテーション	[講義] 授業内容および進行方法を説明する。 出席カードを作成する。					板井	
2	行動体力の測定	[演習] 自身の体について調べた数値と感覚をつなぐため、形態・筋力・瞬発力・持久力などの測定を行い、現在の行動体力を知る。					板井	
3	バドミントン	[講義と演習] 「体を育む」体育と「体で育む」体育理論と実践 体育とは、体力を向上させたり技術を身につけたりする 「体を育む」ことだけではない。身体運動を通じて互いの 信頼関係を築いたり、場を共有し命の交感を育んだりする 「体で育む」体育がこれからは必要である。 そのことの理解を運動を通じて学ぶ。					板井	
4	バドミントン						板井	
5	子どもテニス						板井	
6	子どもテニス						板井	
7	ユニバーサルホッケー	[講義] 体力・健康のあり方や「命ある私のからだ」について改めて考察する。					板井	
8	まとめと評価						板井	
教科書	指定しない			参考書等	なし			
履修条件	なし			評価方法	1. 授業態度評価点(70%) 2. レポート点(30%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	定員は設けませんが、希望者が多い場合は実施できる種目に限りがあることを承知の上で履修すること。 毎回の講義、演習に集中して学んでいくこと。予習復習時間は23時間以上。 養護教諭2種免許状の申請に必要な科目である。							

授業科目	基礎英語		科目責任者 鹿野 浩子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講 Semester	1 年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	異文化を理解し、異なる言語を話す人とコミュニケーションをとる基礎能力を養う。						
	到達目標	英語で英語圏の文化を理解し、英語によるコミュニケーションの基礎能力を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	音声学 1	[講義・演習] 母音・子音の音声の違いを学ぶ。					鹿野	
2	音声学 2	[講義・演習] 母音・子音の音声の違いを学ぶ。					鹿野	
3	名詞 1	[講義・演習] 固有名詞を学ぶ 1。					鹿野	
4	疑問文・平叙文 1	[講義・演習] 相手のことを聞いて、理解したことを自分の言葉に置き換えて相手に再確認する方法を学ぶ 1。					鹿野	
5	疑問文・平叙文 2	[講義・演習] 相手のことを聞いて、理解したことを自分の言葉に置き換えて相手に再確認する方法を学ぶ 2。					鹿野	
6	時制 1	[講義・演習] 現在形・過去形・過去完了形を学ぶ。					鹿野	
7	命令文	[講義・演習] 日常生活での規則を伝える方法を学ぶ。					鹿野	
8	名詞 2	[講義・演習] 身の回り品のことを学ぶ。					鹿野	
9	前置詞 1	[講義・演習] 所在 (位置) を学ぶ。					鹿野	
10	前置詞 2	[講義・演習] 道順を学ぶ (その①)。					鹿野	
11	前置詞 3	[講義・演習] 道順を学ぶ (その②)。					鹿野	
12	副詞	[講義・演習] 頻度の副詞の使い方の違いを学ぶ。					鹿野	
13	時制 2	[講義・演習] 付加疑問文の作り方とその答え方を学ぶ。					鹿野	
14	時制 3	[講義・演習] 過去形・過去完了形を学ぶ。					鹿野	
15	試験						鹿野	
教科書	「Vital Signs」 (Revised Edition) Vivian Morooka and Terri Sugiura 著、南雲堂、2018年			参考書等	講義時に適宜提示する。 小さな命が呼ぶとき [DVD]			
履修条件	なし			評価方法	1. 定期試験 (50%) 2. 小テスト (30%) 3. 課題レポート (20%) 4. 授業態度 (減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	本授業では、日常生活でも使用する基本的な言い回しを習得することを目的とする。英語は日本語とは言語構造や表現方法の違いがあるという点に留意しながら授業を進めていく。教科書付属の CD は授業前までには必ず聞き、分からない語彙は事前に調べておく。復習はテキスト英文を再現できるように反復学習すること。予習復習時間は 12 時間以上。本科目は養護教諭二種免許状を申請するための「外国語コミュニケーション」として必要な科目である。							

授業科目	医療英語 コミュニケーション		科目責任者 鹿野 浩子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
	時間数	30		受講semester	1年次 後学期			
学習目的と 到達目標	目的	医療環境で使われる英語を理解し、コミュニケーションをとる基礎力を養う。						
	到達目標	医療英語の基礎を身につけ、医療従事者としての英語コミュニケーション能力を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	外来1	[講義・演習] Unit 1 救急外来における患者対応を学ぶ。					鹿野	
2	外来2	[講義・演習] Unit 1 救急外来における家族への説明を学ぶ。					鹿野	
3	院内説明	[講義・演習] Unit 2 入院病棟を説明する方法を学ぶ。					鹿野	
4	問診1	[講義・演習] Unit 2 患者の既往歴をきく方法を学ぶ。					鹿野	
5	問診2	[講義・演習] Unit 3 患者の状態を伺う方法を学ぶ。					鹿野	
6	検査・採血	[講義・演習] Unit 3 血液検査と採血の指示を学ぶ。					鹿野	
7	手術手順	[講義・演習] Unit 4 手術についての説明方法を学ぶ1。					鹿野	
8	麻酔	[講義・演習] Unit 4 手術についての説明方法を学ぶ2。					鹿野	
9	術後観察	[講義・演習] Unit 5 術後観察とケアについて学ぶ。					鹿野	
10	カテーテル挿入	[講義・演習] Unit 5 術後のケアについて学ぶ。					鹿野	
11	退院指導	[講義・演習] Unit 6 退院準備について学ぶ。					鹿野	
12	食事指導	[講義・演習] Unit 6 食事指導について学ぶ。					鹿野	
13	応用	[講義・演習] 復習と応用。					鹿野	
14	まとめ	[講義・演習] まとめ。					鹿野	
15	試験						鹿野	
教科書	「Essential English for Nurses」 Paul F. Zito & 早野 Zito 真佐子著、日総研、2020年			参考書等	講義時に適宜提示する。 コンカッション [DVD]			
履修条件	なし			評価方法	1. 定期試験 (50%) 2. 小テスト (30%) 3. 課題レポート (20%) 4. 授業態度 (減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	授業前までに教科書に目を通しておき、分からない単語は必ず辞書で確認し、教科書付属のCDを聞いておく。復習はテキスト英文を再現できるようにする。予習復習時間は12時間以上。本科目は養護教諭二種免許状を申請するための「外国語コミュニケーション」として必要な科目である。							

授業科目	医療英語		科目責任者 鹿野 浩子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	30	受講セメスター	2・4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	英語で書かれた医療系文献を理解する力を養う。						
	到達目標	医療英語の知識を身に付け、英語で書かれた論文や医療関係書籍から情報を収集し、発表できる力を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	オリエンテーション	[講義・演習] 医学系文献を読む重要性を学ぶ。					鹿野	
2	発表方法1	[講義・演習] 発表方法と聞き方を学ぶ1。					鹿野	
3	医療と健康と経済	[講義・演習] 甘味料飲料、健康、売上高の相関関係を学ぶ。					鹿野	
4	臨床	[講義・演習] 無呼吸症候群の症状、原因とメカニズムを学ぶ。					鹿野	
5	薬害1	[講義・演習] 子供への薬害の事例をアメリカ食品医薬品局の取り組みを通じて学ぶ。					鹿野	
6	医療と法律1	[講義・演習] アメリカと日本における臓器移植法について学ぶ。					鹿野	
7	倫理問題1	[講義・演習] 現代の医療と守秘義務を事例から学ぶ。					鹿野	
8	医療と法律2	[講義・演習] 医療過誤と医療従事者の謝罪の方法について学ぶ。					鹿野	
9	倫理問題2	[講義・演習] 遺伝子操作：クローンについて学ぶ。					鹿野	
10	倫理問題3	[講義・演習] 遺伝子治療・遺伝子改造から倫理問題までを学ぶ。					鹿野	
11	倫理問題4	[講義・演習] 内戦・医療・女性について学ぶ。					鹿野	
12	発表方法2	[講義・演習] 発表方法と聞き方を学ぶ2。					鹿野	
13	発表1	[講義・演習] プレゼンテーションから発表を学ぶ。					鹿野	
14	発表2	[講義・演習] ディスカッションから他者の意見を学ぶ。					鹿野	
15	評価						鹿野	
教科書	指定しない			参考書等	講義時に適宜提示する。			
履修条件	なし			評価方法	1. 発表 (40%) 2. 授業内参加態度 (40%) 3. 提出物 (20%) 4. 授業態度 (減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	本授業では英語で書かれた医療文献を理解し、発表できる力を養うことを目的とする。予習として予め文献を読み込み、内容をまとめておくこと。また復習として、文献をまとめると共に何が問題となっているのか問題提起できるようにする。予習復習に要する時間は12時間以上。							

授業科目	スペイン語	責任者	今野 弘子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		調整者	大塚 公一郎	時間数	30	受講セメスター	1・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	異文化を理解し、異なる言語を話す人とコミュニケーションをとる基礎能力を養う。						
	到達目標	スペイン語でスペイン語圏の文化を理解し、スペイン語によるコミュニケーションの基礎能力を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	アルファベット、発音、アクセント	[講義・演習]	スペイン語のあいさつ、母音、子音、アクセントのルールを学習する。				今野	
2	名詞、名詞の数、冠詞	[講義・演習]	名詞の性・数、冠詞が名詞の性・数に一致することを学習する。				今野	
3	主格人称代名詞、動詞 ser、形容詞	[講義・演習]	動詞 ser の活用と用法 (ser + 形容詞、ser + 名詞、ser + de + 国名) を学習する。				今野	
4	否定文、疑問文、疑問詞 (1)	[講義・演習]	否定文、疑問文の文型、疑問詞のある疑問文の語順を学習する。 1・2課単元テスト				今野	
5	直接法現在規則活用動詞、疑問詞 (2)、接続詞	[講義・演習]	規則活用動詞の活用と用法を学習する。				今野	
6	指示詞、所有詞、曜日、日付、時間表現 (1)	[講義・演習]	指示詞、所有詞(前置形、後置形)、動詞 ser を用いた時間表現を学習する。				今野	
7	動詞 estar と ser/estar	[講義・演習]	動詞 estar の活用と用法、ser と estar の用法の違いを学習する。 3・4課単元テスト				今野	
8	動詞 hay, hay と estar	[講義・演習]	人や物の有無、所在の表現、hay と estar の用法の違いを学習する。				今野	
9	直接法現在不規則活用動詞 (1)、時間表現 (2)	[講義・演習]	不規則動詞の活用と用法を学習する。 5・6課単元テスト				今野	
10	直接法現在不規則活用動詞 (2)、目的格人称代名詞	[講義・演習]	不規則動詞の活用と用法、直接目的格人称代名詞と間接目的格人称代名詞を学習する。				今野	
11	直接法現在不規則活用動詞 (3)、前置詞格人称代名詞	[講義・演習]	不規則動詞の活用と用法、前置詞格人称代名詞を学習する。				今野	
12	動詞 gustar とその他の gustar 型動詞	[講義・演習]	動詞 gustar とその他の gustar 型動詞の活用と用法を学習する。				今野	
13	不定語、否定語、天候表現、比較表現 (形容詞)	[講義・演習]	不定語、否定語の用法、天候を表す動詞、形容詞の比較表現を学習する。				今野	
14	再帰動詞	[講義・演習]	再帰代名詞を伴った再帰動詞の活用と用法を学習する。				今野	
15	試験						今野	
教科書	「Español Colorido」(彩りスペイン語) 辻博子、野村明衣著、朝日出版社、2021年			参考書等	「デイリーコンサイス西和・和西辞典」寺崎英樹、Enrique Contreras 著、三省堂、2018年 電子辞書の西和単語集			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験 (50%) 2. 単元テスト (30%) 3. 学習態度 (20%) 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	名詞の性の判断のため、辞書の購入は必須。外国語の習得には反復が欠かせないため、必ず予習復習をすること。予習復習時間は12時間以上。							

授業科目	中国語	責任者	趙 敏	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし	
		調整者	鹿野 浩子	時間数	30	受講semester	1・4年次 前学期		
学習目的と 到達目標	目的	異文化を理解し、異なる言語を話す人とコミュニケーションをとる基礎能力を養う。							
	到達目標	中国語で中国語圏の文化を理解し、中国語によるコミュニケーションの基礎能力を習得する。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員		
1	概 説	[講義・演習] ガイダンス、中国と中国語について理解する。					趙		
2	中国語の発音 (1)	[講義・演習] 声調、単母音と子音を学ぶ。					趙		
3	中国語の発音 (2)	[講義・演習] 複合母音、鼻母音を学ぶ。拼音のルールを理解する。					趙		
4	挨拶・自己紹介	[講義・演習] 日常の挨拶表現、自己紹介を学ぶ。					趙		
5	出身地を紹介する	[講義・演習] 人称代名詞、“是”の使い方を学ぶ。					趙		
6	ものを探す	[講義・演習] 指示代名詞、疑問詞疑問文を学ぶ。					趙		
7	場所を探す	[講義・演習] 場所代名詞、動詞述語文を学ぶ。					趙		
8	位置を確認する	[講義・演習] “在”の使い方、反復疑問文を学ぶ。					趙		
9	家族の話	[講義・演習] “有”の使い方、名詞述語文を学ぶ。					趙		
10	買い物をする	[講義・演習] 数字、量詞、疑問詞を学ぶ。					趙		
11	電話をかける	[講義・演習] 時間、時刻、助動詞を学ぶ。					趙		
12	料理の話	[講義・演習] 形容詞述語文、選択疑問文を学ぶ。					趙		
13	気候の話	[講義・演習] 比較文を学ぶ。					趙		
14	復習と課題発見	[講義・演習] 医療用語を学ぶ。診察の会話を練習する。					趙		
15	試 験						趙		
教科書	「スタートダッシュ中国語」氷野善寛、伊藤大輔 等著、朝日出版社、2019年			参考書等	なし				
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験 (60%) 2. 授業中の小テスト (「聴写」) (30%) 3. 授業参加態度 (10%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	中国語をマスターするためには、繰り返して練習することが重要なので、付属CDを聞いて必ず毎回の課題を予習・復習する。授業の最初に確認のための小テストを行う。講義の課題に応じ、毎回自律的に予習および復習を行う必要があります。予習復習時間は12時間以上。								

基礎科学分野

生活・社会の成り立ち

授業科目	社会学	責任者	李 泰俊	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
		調整者	関山 友子	時間数	15	受講セメスター	1年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	個人と社会との関係性を理解し、生活者としての個人を理解する。						
	到達目標	友人、家族、ならびに地域・産業・メディア・医療などを具体的に取り上げ、自分と自分を取り巻く社会との関係をとらえ直し、生活者としての視野を広げ、考えを述べる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	「個人」と「社会」	[講義] 「社会学」とは何か。社会はどのように形成され、どのように発展してきたか、日常の行為の中で取り結ばれる自分と他者、社会との関係性から考える。					李	
2	「個人」と「集団」の社会学	[講義] 個人と集団を媒介する「相互行為」・「社会的役割」の形成を捉えつつ、社会集団、地域社会・国民社会に影響される個人について考える。					李	
3	社会学の理論からみる社会(学)の展開	[講義] 社会学創始期から展開期にかけての社会学者の理論と主張を通し、社会の展開と現代社会の形成を理解する。					李	
4	「家族」の社会学	[講義] 「家族」の概念の変容を確認しつつ、現代社会における意味を、少子化やジェンダー論等を踏まえながら考える。					李	
5	「ゼンター」と「フェミニズム」	[講義] 生物学的な性別であるセックス (sex) と区別する「ゼンター」を理解し、社会における女らしさや男らしさ、女性の役割と男性の役割という社会的性別差に対抗するフェミニズムについて考える。					李	
6	「働き方」と「職場」の変遷	[講義] 生産領域である労働と産業を中心に、「職場」と「働き方」の変化と再生産領域への影響について考える。					李	
7	「医療」と「福祉」	[講義] 医療従事者と患者の関係性、病院という場の意味、あらゆる格差社会と「医療」と「福祉」について考える。					李	
8	試験						李	
教科書	指定しない			参考書等	「社会学」、アンソニー、ギデンズ(著)、而立書房、2009年			
履修条件	なし			評価方法	1. 期末試験(60%) 2. 授業中の課題(30%) 3. 学習態度(10%) 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	社会学は、社会全体の変動のみに焦点を当てるのではなく、人間の行動がどのように社会を変えているのかなど、社会と人間の相互作用を理解するものである。社会学の理解をより深めるためには、授業において取り上げられたテーマと実生活を照らし合わせその機能と役割をもう一度確かめることが必要である。配布資料や参考文献をよく読み予習を行うこと。参考文献については、各講義において紹介する。予習復習に要する時間は23時間以上。							

授業科目	家族社会学	責任者	岩下 好美	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし	
		調整者	関山 友子	時間数	15	受講 Semester	2年次 前学期		
学習目的と 到達目標	目的	家族とは何かを理解し、現在やこれからの家族の意識の変化、ならびに、家族のあり方が影響を及ぼすと考えられる育児や人格の形成について考察する。							
	到達目標	1. 家族とは何かを理解し、これからの家族の意識の変化について考察を述べる。 2. 育児や人格の形成について考察を述べる。 3. 家族力動理論について学習したことを述べる。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員		
1	家族とは何か	[講義] 「家族」は誰にとっても身近なもので、「当たり前」の存在と思われがちである。個人にとって「家族」とは何かを考える。					岩下		
2	生殖補助医療と家族	[講義] ストレス過多の社会、晩産化にともない、子どもに恵まれない夫婦も増加、一方、生殖補助医療の発達により子どもを持つ努力をする夫婦も増加している。そのことは、家族とは何かという問題にも大きく影響している。新しい家族とは何かを考える。					岩下		
3	家族の始まり（結婚）	[講義] 結婚の意味、歴史、現代的様相を学び、家族とは何かを考える。					岩下		
4	夫婦関係	[講義] 夫婦関係を社会学視点からとらえる。夫婦関係の歴史、現代的様相を学ぶ。					岩下		
5	親子関係	[講義] 家族の関係性における親子関係（子どもの社会化を含め）を、実態の変化を、役割という視点から考える。					岩下		
6	少子化、青少年の問題	[講義] 少子高齢化の問題を取り上げ、その現状と対策等を学ぶ。近代家族から続く、青少年の問題を取りあげ、家族の役割を考える。					岩下		
7	高齢者と家族	[講義] 孤立死、認知症高齢者等、家族の高齢期の理解を深め、高齢患者の問題に気づく基礎を学ぶ。					岩下		
8	試験	学習方法：予習として教科書を読んでくること。毎時間、配布された教科書のレジュメで、基本的な内容を学び、リアクションペーパーの課題に対して自分自身の意見を述べる。					岩下		
教科書	「家族社会学 基礎と応用 第3版」 木下謙治監修、九州大学出版、2016年			参考書等	「社会学」長谷川公一他、有斐閣、2007年				
履修条件	なし			評価方法	1. 定期試験（教科書持ち込み可）（60%） 2. リアクションペーパー（40%） 3. 学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	家族とは何かを理解し、現代家族の意識の変化、並びに、家族の各段階における課題を把握し、看護職として患者とその家族に対する理解を深めていく科目である。 予習：授業の進み方が速いので、授業前に教科書を読むこと。 復習：レジュメの内容を教科書で確認しておくこと。自分自身の家族について内省し、自分が経験している家族形態以外にも関心の目を向けてみる。予習復習に要する時間は23時間以上。								

授業科目	法学 (日本国憲法を含む)	責 任 者	田中 嘉彦	単位数	2	必修選択別	選択	履修条件 なし
		調 整 者	鹿野 浩子	時間数	30	受講semester	1・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	主として市民と国家が関わる公法の領域を中心として、「公正」と「正義」という観点から、法的な思考方法と基本概念を理解しながら、社会生活における法的な問題を考える。						
	到達目標	1. 日本国憲法を中心として、「法」に関する基本的な概念と体系を説明する。 2. 社会における「法」の役割と市民が「法」を「解釈すること」の意味について、考えを述べる。 3. 医療の領域において「法」がどのように機能して、運用されているのかを説明する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員
1	法学入門	[講義] ガイダンスとして、法学の概念・法令情報の調べ方等について学ぶ。						田中
2	法学概論1	[講義] 法文化・法の種類について学ぶ。						田中
3	法学概論2	[講義] 法と道徳・刑罰について学ぶ。						田中
4	法学概論3	[講義] 法令の構造と解釈方法について学ぶ。						田中
5	法学概論4	[講義] 法令の効力・法令用語について学ぶ。						田中
6	憲法概論1	[講義] 立憲主義と現代国家について学ぶ。						田中
7	憲法概論2	[講義] 日本国憲法の基本原理について学ぶ。						田中
8	憲法概論3	[講義] 基本的人権の原理と限界について学ぶ。						田中
9	憲法概論4	[講義] 包括的基本権・法の下での平等について学ぶ。						田中
10	憲法概論5	[講義] 自由権・社会権・参政権等について学ぶ。						田中
11	憲法概論6	[講義] 国会・内閣について学ぶ。						田中
12	憲法概論7	[講義] 裁判所・違憲審査制等について学ぶ。						田中
13	行政法概論1	[講義] 行政法総論・行政救済法について学ぶ。						田中
14	行政法概論2	[講義] 行政組織法・地方自治法について学ぶ。						田中
15	評価							田中
教科書	指定しない			参考書	「法学入門 新版」田中成明、有斐閣、2016年 「憲法 第7版」芦部信喜(高橋和之補訂)、岩波書店、2019年 その他の関連資料等を講義時に適宜紹介する			
履修条件	なし			評価方法	1. レポート(100%) 2. 学習態度(減点法) 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	テーマごとにレジュメ等を配布する。予習として、参考書及び関連資料等を読むこと。復習として、講義内容を自分の言葉でまとめること。予習復習時間は46時間以上。なお、この授業科目は、養護教諭二種免許状の申請に必要な科目である。							

授業科目	政治と国際関係論	責任者	正田 浩由	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件なし
		調整者	倉科 智行	時間数	15	受講セメスター	1・2年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	個人の生活と政治の関係、マスメディアと政治、国会と内閣、官僚と政治、政治と世界との関係について考察するとともに、異文化についての理解を深め、国際協力の必要性和協力の方法を理解する。						
	到達目標	1. 政治が何であるのか、それが自分の生活にどう関わってくるのか、そのなかで自分はどう暮らしていけばいいのかについて、主体的に考えられるような能力を習得する。 2. 異文化についての理解を深め、国際協力の必要性和その方法について考察を述べる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	政治学・国際関係とはどのような学問か	[講義] 政治学・国際関係がどのような学問かについて考察する。					正田	
2	民主主義と議会制度	[講義] 民主主義と議会制度について考察する。					正田	
3	集団安全保障体制	[講義] 集団安全保障体制（国際連盟・国際連合）について考察する。					正田	
4	資本主義と民主主義	[講義] 資本主義と民主主義の関係について考察する。					正田	
5	日本の立ち位置	[講義] 戦後日本のあり方について考察する。					正田	
6	ヨーロッパ連合（EU）	[講義] ヨーロッパの統合と国家のあり方について考察する。					正田	
7	日韓関係と、今後の日本政治・外交について	[講義] 独裁政権下の韓国の民主化闘争と日本との関係、さらにはこれからの日本政治・外交について考察する。					正田	
8	試験						正田	
教科書	指定しない			参考書等	授業中必要に応じて紹介する			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験（70%） 2. 受講態度（30%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	政治は我々の生活そのもので、政治家や官僚が独占すべきものではない。だから政治を特別視せず、皆さんの感覚を大事に受講してほしい。その上で、予習はシラバス記載のキーワードを自分で調べ、さらには見出しだけでも良いので新聞に目を通すようにしてほしい。講義をただ聞くだけの受け身の態度ではなく、自分の頭で自身の問題として主体的にしっかりと考えることを求める。復習は講義内容を踏まえ、改めて調べること。予習復習に要する時間は23時間以上。							

授業科目	経済学	科 責任者 目	八尾 政行	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
		学 調整者 内	鹿野 浩子	時間数	15	受講セメスター	1年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	経済学の基礎的な理論を理解し、市場経済下における消費者や生産者の行動を考察するとともに、マクロ経済学の基本である有効需要の原理を理解する。						
	到達目標	1. 市場経済下における消費者および生産者の行動を説明する。 2. 国民経済全体を記述する国民所得決定の理論を説明する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	希少性と資源配分	[講義] 経済学とは何か、および経済学で最も重要な側面である資源配分問題を考えるとき必要な用語や概念を学ぶ。					八尾	
2	需要と供給	[講義] 消費財を例にとり、需要と供給を決める要因について学ぶ。					八尾	
3	価格の決定とその変化	[講義] 需要曲線、供給曲線を使って、市場における価格の決定について学ぶ。					八尾	
4	資源配分と所得分配の決定	[講義] 市場経済における資源配分と所得分配の決定、単純な経済循環について学ぶ。					八尾	
5	政府の役割	[講義] 市場経済における政府の役割(法による支配、資源配分、所得分配)について学ぶ。					八尾	
6	国内総生産の決定	[講義] マクロ経済学の諸概念、国内総生産と国内総支出の決定(有効需要の原理)について学ぶ。					八尾	
7	経済の変動と安定化政策	[講義] 国内総生産の変動、マクロ経済の安定化政策について学ぶ。					八尾	
8	試験						八尾	
教科書	「経済学への招待」岩田規久男、新世社、2007年			参考書等	「ベーシック経済学 次につながる基礎固め 新版」古沢 泰治・塩路 悦朗、有斐閣、2018年 「アセモグル/レイブソン/リスト 入門経済学」ダロン・アセモグル、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト(著)(岩本 康志(監修、翻訳)・岩本 千晴(翻訳))、東洋経済新報社、2020年			
履修条件	なし			評価方法	1. 定期試験(80%) 2. 学習態度(20%) 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	授業の前に予習(教科書を読み、重要な点を書き出す)、授業後に復習(授業の内容を復習し、練習問題を解く、宿題に取り組む)をすること。予習復習に要する時間は23時間以上。							

授業科目	文化人類学	責任者	田中 大介	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		調整者	大塚 公一郎	時間数	15	受講 Semester	1・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	家族と親族、地域社会・共同体・民族などの概念から、わが国の土着の文化を含めた多様な文化への理解を深め、文化の比較を行い、文化人類学を理解する。						
	到達目標	文化がもつ様々な働きや、思考・行動との関係性を具体的に理解し、患者の多様な受療行動の文化的・社会的背景を見通す視点を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	人間・社会・文化	[講義] 全般的な学問体系における文化人類学の位置づけと意義を学ぶ。					田中	
2	文化人類学の歴史的展開： ①進化主義	[講義] 文化人類学の黎明期における進化主義の中心を構成する学説と、その社会的影響について学ぶ。					田中	
3	文化人類学の歴史的展開： ②機能主義	[講義] 参与観察に基づく民族誌と、その背景にある機能主義の視座および手法について理解する。					田中	
4	文化人類学の歴史的展開： ③構造主義	[講義] 機能主義以降の文化人類学理論の中でも特に広汎な影響を及ぼした構造主義の思考方法を学ぶ。					田中	
5	医療と文化人類学： ①ケアとは何か	[講義] ケア概念に対する考察を通じて、医療人類学の基礎的な視点を理解する。					田中	
6	医療と文化人類学： ②ライフコースの視座	[講義] ライフコース概念に着目して、人間の生と死をめぐる根源的な問題を考える。					田中	
7	医療と文化人類学： ③健康と病い	[講義] 健康と病いの背後にある文化的・社会的な動向と、その現代的な変化について学ぶ。					田中	
8	評価						田中	
教科書	指定しない			参考書等	指定しない			
履修条件	なし			評価方法	1. レポートその他の授業課題 (70%) 2. 授業への貢献度および参加態度 (30%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	授業の進度や履修者の関心などを総合的に勘案して、上記に示した各回の学習課題や内容を変更する可能性がある。ただし、その場合は授業内で適宜告知する。また、授業内で示した課題を通じて着実に予習復習を進め、関心のある内容については自ら精力的に探究を進めること。予習復習時間は23時間以上。							

授業科目	ジェンダー論	科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	15	受講セメスター	1・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダーの概念を理解すると共に、セクシュアリティ・ジェンダー、医療・看護との関係について学ぶ。 人間生活におけるさまざまな事象をジェンダーの視点から考察する。 						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ジェンダーの概念を説明する。 セクシュアリティとジェンダーの関係性を説明する。 ジェンダーと医療・看護との関係について説明する。 人間生活における様々な事象をジェンダーの視点から表現する。 						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2	ジェンダーの基礎的 概念	[講義] ジェンダーについての基礎的概念について学習する。					白井	
3・4	ジェンダーの視点から みた日本の社会	[講義] ジェンダーの視点から、日本の社会を見直し、考える。					白井	
5	セクシュアリティとジ ェンダー	[講義] 性別・セックス、セクシュアリティ等の概念とジェン ダーとの関係について学習する。					成田	
6・7	ジェンダーと医療・看護	[講義・演習] 医療・看護に潜むジェンダーの問題について考 える。					成田	
8	評価						成田	
教科書	指定しない			参考書等	なし			
履修条件	なし			評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 課題レポート (55%) 毎回の講義についての意見の表明の評価 (40%) 学習態度 (5%) 【評価のフィードバック方法】 レポート返却時、次回の講義時に講評する			
備考	看護すること、看護職であることは、ジェンダーと密接な関係にある。 特に将来助産師になることを希望する学生には、履修をお勧めする。 受講中は、新聞での報道や IT 情報等に関心を持ち、事前学習すること。また講義で紹介した内容についても同様に 情報収集することで復習となる。それらの学習の積み重ね、内容豊富な課題レポートを仕上げる。 予習復習時間は23時間以上とする。							

授業科目	情報学		科目責任者 関山 友子	単位数	2	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	30	受講 Semester	1・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	情報とは何かを学び、情報量の概念を理解し、メディアリテラシー能力を養う。						
	到達目標	1. 情報や情報学について説明する。 2. 情報学の医療や看護にとっての必要性について説明する。 3. コンピュータの仕組み、情報処理の仕組みなど、情報学の基礎的な知識について説明する。 4. メディアリテラシー能力とは何かについて説明する。 5. 情報（ネットワーク）モラルについて説明する。 6. 文章作成、表計算、プレゼンテーション資料作成用のソフトウェアを使用し、情報を作成・加工・発信するための基礎的な技術を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	情報科学の基礎	[講義] 情報とは何か、情報量、情報の符号化などについて学習する。					関山	
2	看護と情報 / コンピュータの基礎	[講義] 「看護」における情報の役割を整理する。 コンピュータの基本的な機能などについて学習する。					浅田	
3	コンピュータと ネットワーク	[講義] ハードウェアとは何か、ソフトウェアとは何か、インターネットの仕組みとは、などを学習する。					浅田	
4	院内情報システムと 情報倫理	[講義] 院内における情報システムの役割、情報を扱う上での倫理や法律などを学習する。					浅田	
5	情報リテラシー (1)	[講義] 情報リテラシーの概要、情報収集の方法などを学習する。					浅田	
6	情報リテラシー (2)	[講義] 情報発信をする際の注意点、プレゼンテーション時の注意点などを学習する。					浅田	
7	コンピュータの基本的 な操作	[演習] コンピュータの基本的な操作方法を学習する。					関山	
8	ワープロソフト演習	[演習] ワープロソフトを用いて文書を作成する能力を習得する。					関山	
9～12	表計算ソフト演習	[演習] 表計算ソフトを用いて表やグラフを作成する能力を習得する。					関山	
13・14	プレゼンテーションソフト演習	[演習] プレゼンテーションソフトを用いてスライドを作成する能力を習得する。					関山	
15	試験						関山	
教科書	「考える 伝える 分かちあう 情報活用力」本田直也監修、noa出版、2017年			参考書等	「系統看護学講座 別巻 看護情報学 第3版」中山和弘他、医学書院、2021年 「はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス」保本正芳編者、noa出版、2022年			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験 (70%) 2. レポート (15%) 3. 学習態度 (15%または減点法) 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	情報学は、他のすべての科目と密接な関わりをもつ科目である。演習については、単に課題をこなすのではなく、能力を習得することを目標として取り組む必要がある。配布資料や Moodle 等で十分復習をして定期試験に臨むこと。予習復習時間は46時間以上。また、本科目は養護教諭二種免許状の申請に必要な科目である。							

授業科目	統計学	科目責任者	関山 友子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	15	受講semester	2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	推測統計学の基本的な概念を理解し、それを医療や看護の場面で応用できる能力を養う。						
	到達目標	1. データのもつ意味、母集団と標本の概念、仮説検定の方法など、統計学の基本的な概念について説明する。 2. 調査などで必要とされるデータの整理、統計的処理、処理結果の解釈などの考え方や手法について説明する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	尺度と度数分布	[講義] 統計学の必要性、質的データと量的データの違い、尺度、度数分布表や度数分布図のつくり方を学習する。					関山	
2	代表値	[講義] 平均値、中央値、最頻値、四分位数、百分位数などの代表値の特性を学習する。					関山	
3	散布度	[講義] 範囲、四分位偏差、標準偏差、分散、変動係数などの散布度の特性を学習する。また、絶対的散布度と相対的散布度の違いを理解する。					関山	
4	相関と回帰	[講義] 相関や相関係数の意味、相関関係と因果関係との違い、回帰と回帰直線の意味を理解する。					関山	
5	確率・順列・組み合わせ	[講義] 確率に関する定理、順列と組み合わせの違い、ベイズの定理などを学習する。					関山	
6	確率分布	[講義] 正規分布、カイ二乗 (χ^2) 分布、t分布、F分布、二項分布、ポアソン分布などの性質と特徴を理解する。					関山	
7	母集団と標本	[講義] 母集団と標本集団の関係を学習し、母集団から標本を偏りなく抽出する方法を学習する。					関山	
8	試験						関山	
教科書	「やさしい保健統計学 (改訂第5版増補)」 縣 俊彦、南江堂、2019年			参考書等	「基本からわかる看護統計学入門第2版」大木秀一、 医歯薬出版、2016年 「量的な看護研究のきほん」大木秀一、医歯薬出版、 2011年			
履修条件	なし			評価方法	1. 定期試験 (85%) 2. 学習態度 (15%または減点法) 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	統計学は、統計学演習のベースになる科目であり、講義内容をよく理解しておかなければ、統計学演習の講義・演習内容が理解できなくなる。したがって、講義前に教科書等により予習し、講義終了後、教科書や配布資料等を用いて復習をしっかりとしておく必要がある。予習復習時間は23時間以上。							

授業科目	統計学演習		科目責任者 関山 友子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講 Semester	2年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	統計学で学習した内容をさまざまな場面で応用できる能力を養う。						
	到達目標	1. 統計解析ソフトの使い方を習得する。 2. 統計解析ソフトを使うために必要となる準備について説明する。 3. 統計解析ソフトを利用して解析した結果を読み取り、解釈したことを述べる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	オリエンテーション	[講義] 「統計学」で学習した内容を整理し、「統計学演習」で学ぶべき内容を理解する。					関山	
2・3	仮説検定(1)	[講義] 帰無仮説と対立仮説、両側検定と片側検定、有意水準(危険率)と限界確率、第1種の過誤と第2種の過誤などを学習する。					関山	
4・5	仮説検定(2)	[講義] 平均値の差の検定、独立性の検定の内容と意味を学習する。					関山	
6	仮説検定(3)	[講義] 分散分析法(一元配置分散分析、二元配置分散分析など)について学習する。					関山	
7	統計解析演習(1)	[演習] e-Stat等のオープンデータを取得し、統計解析を行うためのExcelおよびSPSSへのデータの入力方法やデータの加工方法を学習する。					関山	
8	統計解析演習(2)	[演習] e-Stat等のオープンデータを取得し、加工したデータを用いて、単純集計を行う方法、基本統計量を算出する方法を学習する。					関山	
9・10	統計解析演習(3・4)	[演習] SPSSに入力したデータから平均値の差の検定を行う方法、その検定結果の読み方および書き方を学習する。散布図等の統計グラフの作成方法を学習する。					関山	
11	統計解析演習(5)	[演習] SPSSに入力したデータからクロス表を作成する方法、独立性の検定を行う方法、およびその検定結果の読み方および書き方を学習する。					関山	
12	統計解析演習(6)	[演習] SPSSに入力したデータから一元配置分散分析を行う方法、その検定結果の読み方および書き方を学習する。					関山	
13・14	統計解析演習(7・8)	[演習] 情報の取り扱いに係る法規・倫理を学習し、質問紙調査の回答の入力方法、回答の集計の方法、特に複数回答の処理の方法を学習する。					関山	
15	試験						関山	
教科書	「やさしい保健統計学(改訂第5版増補)」 縣 俊彦、南江堂、2019年			参考書等	「基本からわかる看護統計学入門第2版」大木秀一、 医歯薬出版、2016年 「量的な看護研究のきほん」大木秀一、医歯薬出版、 2011年			
履修条件	なし			評価方法	1. 定期試験(70%) 2. 演習時の課題レポート(15%) 3. 学習態度(15%または減点法) 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	統計学演習は、統計学に引き続く科目であり、統計学での講義内容を十分に習得していることを前提として展開される。したがって、統計学の内容の理解が十分でない者は、事前に再度学習しておく必要がある。教科書や配布資料、Moodle等で十分復習して定期試験に臨むこと。予習復習時間は12時間以上。							